

## 【概要・目的】

### 《背景》

- 平成23年3月11日、地震・津波・原子力災害と、福島県は、**世界初の甚大な複合災害**に見舞われた
- 災害記録や教訓を収集・保存・研究し、後世に継承・発信し続けることは、被災を経験した**人々共通の思い**
- とりわけ人類が開発した原子力による災害は、今後二度と繰り返してはならない。**風化させず継承・共有することは、我が国の国際的な責務**
- このため、原爆を伝える広島や長崎同様、**多くの方が訪れ福島への被災への理解を深める施設の整備は必須かつ急務**



### 《施設整備の基本理念》

- 災害に至った歴史や、災害と復興の記録・教訓の『**未来への継承**』、『**世界との共有**』
- 防災・減災の対策、復旧・復興の加速等への寄与

#### ※福島復興再生基本方針

原子力災害の経験と教訓を次世代に継承し世界と共有することは国の責務

## 【具体的なイメージ】

### 《施設の機能》

#### ①記録や資料の収集・保存機能

- ・被災前の地域に関する記録 ・原発誘致の経緯
- ・被災状況 ・災害対応、支援活動 ・原発事故への対応
- ・原子力災害による避難・除染 ・復旧・復興対策 など



#### ②調査・研究機能

- ・災害と復興に関する研究 ・防災・減災に関する研究
- ・コミュニティの維持・再生に関する研究
- ・グローバルなネットワークの形成 など

#### ③情報発信・展示

- ・記録、資料、研究成果のデジタル化による発信
- ・災害を伝えるものの展示
- ・復旧・復興のあゆみの展示 など



#### ④教育・交流・人材育成

- ・歴史、災害実態の学び ・防災教育、啓発
- ・世代間交流 ・教育旅行の受入
- ・復興を担い支える人材の育成
- ・文化、伝統芸能等によるコミュニティの維持、再生 など



### 《他機関との連携》

- 国内外の大学や研究機関、博物館、資料館等と連携・協力、人材交流を進め、**英知を結集した課題解決に寄与**

(参考)

	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	
	全体	西館のみ
規模（延床面積）	18,800㎡	8,600㎡
施設整備費	121億円	60億円
年間運営費	8.5億円	-

※阪神・淡路大震災記念  
人と防災未来センター  
【西館】  
研究部門、人材育成部門、  
展示部門、資料室等  
【東館】  
財団事務局、国連等事務所、  
地震研究センター、展示部門